季節のページ･2002年

http://koyomi.vis.ne.jp/　こよみのページ

1月のページ(一月の別称　睦月・建寅月・嘉月・初陽月など)

祝日と主な祭事　(以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付)

- 祝日 元日(参考記事)(01/01)
- 人日の節句(七草の節句) (01/07)
- 祝日 成人の日　(01/14)
- 小正月 (01/15頃)

上　旬 (01/1 – 01/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
元日	01/01	–	**六十六候**　雪下りて麦のびる
寒の入り	01/05	小寒	**六十七候**　芹栄う
良寛忌	01/06	–	
	01/10	–	**六十八候**　泉水温をふくむ

元日・元旦(01/01)
一年最初の日。「**元**」は始の意。この日の朝が元旦。「**旦**」は太陽が地平線上に姿を現す様子(正月参照)。

寒(01/05～02/04)
小寒の寒の入りから立春の寒明けまでが「**寒**」(**寒中**とも)。
きびきびと万物寒に入りにけり
(富安　風生)

良寛忌(01/06)
天保二年(1832年)良寛没す。
形見とて 何かのこさむ 春は花 夏ほととぎす 秋はもみじ葉　(良寛・辞世)

人日の節句(01/07)

中　旬 (01/11 – 01/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
成人の日	01/14	–	
小正月	01/15頃	–	
	01/15	–	**六十九候**　雉始めて鳴く
寒土用(冬土用)	01/17	–	
	01/20	大寒	**七十　候**　蕗のとう花咲く

左義長・どんど焼き(01/14～01/15)
新年の松飾り・注連飾り等を集めて焼く正月の火祭り。

小正月(01/15頃)
小正月は元日を中心とした大正月に対する言葉。
女正月、上元とも呼ばれ、餅花を飾り小豆粥を炊く等の風習がある。
松とりて世ごころ楽し小正月
(小林　一茶)

寒土用・冬土用(01/17～02/03)
この日から節分の日までが、冬の土用の期間。

下　旬 (01/21 – 01/31)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	01/25	–	**七十一候**　水沢あつく堅し
	01/30	–	**七十二候**　鶏とやにつく

厄年
陰陽道の唱える身を慎むべき年齢。
男子は**25,42,61歳**、女子は**19,33,37歳**(数え年)とするのが一般的。
前厄・後厄と併せて3年身を慎むと言うが、元をただせば「死に(42)」「散々(33)」に通ずと言う語呂合わせ。

氷柱
一年で一番寒いのは立春前のこの時期。雪国では軒先、木の枝先のしずくが凍って氷柱となる。
別名銀竹、垂氷。
みちのくの星入り氷柱吾に呉よ
(鷹羽　狩行)

1月の花暦

中国	日本(江戸)	日本(現在)	
梅(うめ)	松(まつ)	梅(うめ)	福寿草(ふくじゅそう)

http://koyomi.vis.ne.jp/

2月のページ（二月の別称　衣更着・如月・建卯月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付）

- 節分　（2/03　追儺（ついな））
- 祝日 建国記念の日　（2/11）
- バレンタインデー　（2/14）

上　旬（2/1 － 2/10）

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
節分	2/03	－	
	2/04	立春	一候　東風凍を解く
	2/09	－	二候　うぐいす鳴く

節分

季節を分けることから「節分」。四季に全て節分があるが、立春前の節分は「年」の区切りの意味もある。この日、各地で**鬼を追う豆まき**の行事が行われる。

立春と年内立春

冬至と春分の中間点。
「春立つ日」。立つは始まりの意。
陰暦では概ね一月（睦月）、あるいは十二月。十二月の場合は、年内立春と言う。

春たちてまだ九日の野山かな
（芭蕉）

中　旬（2/11 － 2/20）

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
建国記念の日	2/11	－	
バレンタインデー	2/14	－	三　候　魚氷にあがる
	2/19	雨水	四　候　土が潤い起こる

梅暦（うめごよみ）

梅の花。花が開くことによって春を知らせてくれる自然の暦。
しら梅に明る夜ばかりとなりにけり
（蕪村、辞世）
蕪村には梅を詠った句が多い。最後の瞬間も梅の花を気にかける蕪村である。

建国記念の日

日付決定の根拠があやふやだとして批判も多い祝日である。
建国伝説、その伝説の日付の正確さを論ずる必要性があるのだろうか、疑問である（学問研究は自ずと別の話）

下　旬（2/21 － 2/28）

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	2/24	－	五　候　霞始めてたなびく

春霞

気象学的には「霧」と同じ。だが霞と言えば春（霧と言えば秋）。
霞む景色は、まどろむ人の風情である。
二またになりて霞める野川かな
（白雄）

菜の花

里の春を代表する花。二月ではまだ少々早い気もするが、温暖な地域では目にすることもあるだろう。
季節を先取りして掲示。
菜の花や 月は東に 日は西に
（蕪村）

二月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
桃（もも）	梅（うめ）	椿（つばき）	水仙（すいせん）

http://koyomi.vis.ne.jp/

3月のページ（三月の別称　弥生・建辰月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付）

- 桃の節句　（3/03　上巳の節句・雛祭りなどとも呼ばれる）
- 彼岸　（3/18～3/24　春の彼岸）
- 祝日 春分の日　（3/21）

上　旬 (3/1 – 3/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	3/01	–	**六　候**　草木萌え動く
桃の節句	3/03	–	
	3/06	**啓蟄**	**七　候**　巣籠もりの虫戸をひらく

三月と言えば、桃の節句

三月三日、三が重なることから重三の節句とも言う。古くは、三月の上の巳の日の節句で、上巳の節句と言った。
ぼんぼりに、明かりを灯す雛祭り。

「**頬笑み**（微笑み）」は**蕾が開く**の意味があるとか。
桃の花の微笑みが女子の節句によく似合う。
野に出れば人みなやさし桃の花
（高野　素十）

中　旬 (3/11 – 3/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	3/11	–	**八　候**　桃始めて咲く
	3/16	–	**九　候**　菜虫蝶と化す
彼岸の入り	3/18	–	

土筆（つくし）　別名 筆の華

「土筆誰の子、杉菜の子」の唄のとおり、杉菜の胞子茎。土手に土筆、当たり前の風景が減ってしまった。
土筆煮て飯くふ夜の台所
（正岡　子規）

蕗の薹

雪解けの枯れ草のしたから**忽然と**現れる蕗の薹。生まれ故郷の福島ではまだ雪の下か。
雌雄異株。雌花は白、雄花は黄白。
ふるさとは深雪の底か蕗の薹
（石塚　友二）

下　旬 (3/21 – 3/31)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
春分の日	3/21	**春分**	**十　候**　雀始めて巣くう
彼岸の明け	3/21	–	
	3/26	–	**十一候**　桜始めて開く
	3/31	–	**十二候**　雷声を出す

お彼岸さん

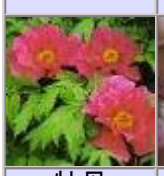
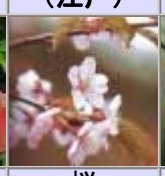
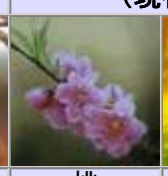
春分の日を挟む7日間。春の彼岸である(2002年は3/18-24)。
もう牡丹餅は食べましたか？

桜前線

「花と言えば桜」と言われる程、日本人が愛して止まない花。
1月の沖縄は別格として、3月下旬から5月下旬までの約2ヶ月、皆の注目のうちに北上する花の前線。

願はくは花のもとにて春死なむその如月の望月の頃
（西行）

三月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
			
牡丹（ぼたん）	桜（さくら）	桃（もも）	菜の花（なのはな）

http://koyomi.vis.ne.jp/

土筆の画像は、男衾村ー復興計画(http://www.obusuma.com/)のフリー画像を使用させていただきました。

4月のページ（四月の別称　卯月・建巳月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付）

- 花見　（3月下旬～　地域により異なる）
- 灌仏会　（4/08　花祭り）
- 祝日 みどりの日　（4/29）

上　旬 (4/1 – 4/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候	
花見	～～	–		
	4/05	**清明**	**十三候**	燕来る
灌仏会	4/08	–		
	4/10	–	**十四候**	雁水へ帰る

四月と言えば、花見
元々は、上巳の祓え（上巳の節句）と同様の宗教儀式だったもの。現在でも、祭礼をこの時期に行う寺社は多い。
さくら一本春に背けるけはひ哉
（蕪村）

入学式
桜の花の下に初々しい新入生の姿を目にする。春の訪れを実感する一瞬。

灌仏会（花祭り）
釈迦の誕生日とされる4/8を祝うもの。旧暦で行う地方も多い。

中　旬 (4/11 – 4/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候	
	4/15	–	**十五候**	虹始めて見る
	4/20	**穀雨**	**十六候**	葭始めて生ず

草の雨
芽吹いた野山の草木にもけむるように静かに降る春の雨。

葦牙（あしかび）
葦の錐、葦の角などとも呼ばれる。葦（葭）が芽吹き、水面に新芽が顔を出す。その新芽の鋭い姿が牙・錐・角を連想させる。緑の牙。

穀雨
芽吹き始めた作物に恵みの雨の降る頃。
黛を濃うせよ草は芳しき
（松根　東洋城）

下　旬 (4/21 – 4/30)

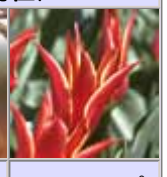
行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候	
	4/25	–	**十七候**	霜止み苗生ず
みどりの日	4/29	–		
	4/30	–	**十八候**	牡丹花咲く

みどりの日 4/29
昭和天皇の誕生日。平成となってみどりの日として残された。春の野は緑と花に彩られる。

牡丹
古来から愛され、栽培されてきた春を代表する大輪の花。
牡丹花は咲き定まりて静かなり　花の占めたる位置のたしかさ
（木下　利玄）

竹の秋
草木が芽吹く季節に、一人葉を落とす竹。**竹秋**は春の季語。
裏木戸の日の明るさや竹の秋
（倉田　素商）

四月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
			
桜（さくら）	藤（ふじ）	桜（さくら）	チューリップ

http://koyomi.vis.ne.jp/

5月のページ（五月の別称　皐月・建午月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付）

- 八十八夜（5/02）
- 祝日 憲法記念日（5/03）
- 端午の節句（5/05）
- 祝日 こどもの日（5/05）
- 母の日（5/12）

上　旬（5/1 － 5/10）

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
八十八夜	5/02	－	
憲法記念日	5/03	－	
端午の節句	5/05	－	
こどもの日	5/05	－	
	5/06	立夏	十九候　蛙始めて鳴く

八十八夜
「夏も近づく八十八夜」の茶摘み歌で知られる八十八夜。この日摘んだ茶の味は最高だとか。
八十八夜の別れ霜の言葉もあり、農耕上の重要な天気俚諺である。
日本の暦にのみ登場する雑節。

端午の節句
菖蒲の節句。菖蒲を尚武に掛けて、男子の節句とされている。祝日のこどもの日にもあたる。

立夏
早くも暦では「夏」である。

中　旬（5/11 － 5/20）

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	5/11	－	二十候　蚯蚓出づる
母の日	5/12	－	
	5/16	－	二十一候　筍生ず

母の日
５月の第２日曜日は「母の日」。
カーネーションの花を胸に差し、母の愛に感謝する日です。

青葉騒
目に青葉の季節。風も心地よい頃。その両者が相まって、青葉騒と言う言葉がある。ざわざわと風に騒ぐ若葉の音である。
筥の口薄々ひらく青葉騒
（赤尾　兜子）

下　旬（5/21 － 5/31）

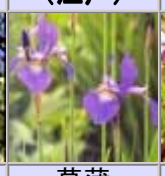
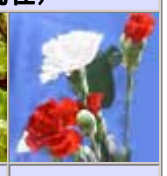
行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	5/21	小満	二十二候　蚕起きて桑を食う
	5/26	－	二十三候　紅花栄う
	5/31	－	二十四候　麦秋至る

五月晴れ
本来は梅雨の合間の晴れ間を差す言葉であったが、現行の暦になり「五月」の時期が変わったため、現在の5月の清々しい青空を差す言葉に変わりつつあるようだ。

田植え
四月の末頃から始まり、季節と共に日本を北上して行く田植え。一面の水田に規則正しく植え付けられた稲の苗の姿は、日本の原風景である。

田ごとの月
田植えも終わり、水の張られた田の一つ一つが月を映すさま。

五月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
			
木蓮（もくれん）	菖蒲（あやめ）	藤（ふじ）	カーネーション

http://koyomi.vis.ne.jp/

6月のページ（六月の別称　水無月・建末月・水月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付）

- 入梅　(6/11)
- 父の日　(6/16)

上　旬 (6/1 – 6/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
衣替えの日	6/01	–	
	6/06	芒種	二十五候　蟷螂生ず
時の記念日	6/10	–	

衣替え（更衣 6/01）
昔の衣替えは四月と十月の朔日（旧暦）。「四月一日（わたぬき）」と言う珍姓は旧暦四月一日に着物の綿を抜く行事に由来する。現在は6月に行うことが多く、夏の季語。

芒種(6/06)
「芒」は棘のある種皮を表す「禾（のぎ）」の意味。稲・稗など「禾扁」のつく作物の育つ時期。

緑陰
木漏れ日の射す、さわやかな木陰。
来し迅さにて緑陰を過ぎゆく水
（幸治　燕居）

中　旬 (6/11 – 6/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	6/11	–	二十六候　腐草蛍となる
入梅	6/11	–	
	6/16	–	二十七候　梅の実黄ばむ
父の日	6/16	–	

入梅(6/11)
暦の上の「入梅」は、太陽の黄経が80度となる日と定義されている。昔は芒種後の最初の「壬（みずのえ）」の日(今年なら6/13)。

蝸牛（かたつむり）
雨の日に、ユーモラスな姿を見せる蝸牛、背負った巻き貝を笠に見立てた「笠つぶり」がその名の語源とか。
やさしさは殻透くばかり蝸牛
（山口　誓子）

父の日(6/16)
６月の第３日曜日は「父の日」。父の日にはバラの花を、と言っても母の日ほど認知度は高くない。

下　旬 (6/21 – 6/30)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	6/21	夏至	二十八候　乃東枯る
	6/26	–	二十九候　菖蒲花咲く

夏至(6/21)
太陽が、もっとも南に昇る日。一日の長さが最も長く日差しも1年で一番強い時期に当たるが、日本の多くは梅雨空の下にある。

五月雨
「五月雨」は梅雨の長雨を表す言葉。梅雨の時期が旧暦の頃は5月に当たっていたことによる。
五月雨をあつめて早し最上川
（芭蕉）

菖蒲花咲く
ここで言う菖蒲は花菖蒲・アヤメのこと。本当の菖蒲の花は地味で目立たない。

六月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
石榴（ざくろ）	牡丹（ぼたん）	紫陽花（あじさい）	花菖蒲（はなしょうぶ）

7月のページ(七月の別称　文月・七夜月・愛逢月など)

祝日と主な祭事　(以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付)

- 七夕の節句 (7/07)
- 中元 (7/15)
- 祝日 海の日 (7/20)
- 夏土用の入り (7/20)

上　旬 (7/1 - 7/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
半夏生	7/02	-	**三十候**　半夏生ず
七夕の節句	7/07	小暑	**三十一候**　温風至る

半夏生 (7/02)
半夏(烏柄杓・毒草)が生える時期で、天地に毒気があふれる時期と考えられた。
また、田植えはこの日までに終わらせる習わしがあった。

七夕の節句 (7/07)
七月七日が近づくと街で笹飾りを目にするようになる。元々は旧暦の七月の行事で、秋の季語。
現在でも、旧暦・月遅れで七夕を祝う地方も多い。

中　旬 (7/11 - 7/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	7/12	-	**三十二候**　蓮始めて開く
中元	7/20	-	
	7/17	-	**三十三候**　鷹技を習う
海の日	7/20	-	
土用の入り	7/20	-	

中元 (7/15)
三元(上・中・下元)の一つ。

蓮始めて開く(7/12 七十二候)
花の終わったあとの花托が蜂の巣ににていることから、ハチスが転じてハスとなったと言われる。朝に花が開き、夕方には閉じることから、睡蓮とも呼ばれる。
蓮の花ゆらりとゆれて落ちにけり
(村上　鬼城)

土用の入り (7/20)
土用は本来、四季全てにあるが現在は夏土用のみを指すことが多い。
今年の土用の入りは、鰻たちの厄日「土用丑の日」でもある。

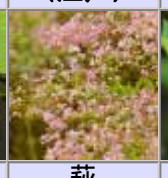
下　旬 (7/21 - 7/31)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	7/23	大暑	**三十四候**　桐始めて花を結ぶ
	7/28	-	**三十五候**　土潤って蒸し暑し

海の旬間 (7/20-7/31)
平成8年から、国民の海に対する理解と認識を高めるために設けられた祝日「海の日」に併せ、各地で海に関する催しが行われる。
学校の夏休みも始まり、海に子供たちの歓声が聞こえる時期である。

大暑 (7/23 二十四節気)
一年で一番暑い季節の始まりである。
嘴(はし)あけて烏も暑きことならん
(田村　木国)

7月の花暦

中国	日本(江戸)	日本(現在)	
			
睡蓮(すいれん)	萩(はぎ)	山梔子(くちなし)	百合(ユリ)

8月のページ(八月の別称　葉月・建酉月など)

祝日と主な祭事　(以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付)

- 夏祭
- お盆　(月遅 8/13～8/15)
- 〃　(旧暦 8/21～8/23)

上　旬 (8/1 - 8/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
夏祭り	～	-	
	8/02	-	**三十六候** 大雨時々降る
原爆忌	8/06,09	-	
	8/08	**立秋**	**三十七候**　涼風至る

夏祭り
八月は夏祭りの月。各地で様々な夏祭りが催される。東北三大祭などがことに有名。

立秋(8/08)
暑さの盛り隣る頃。暑さも極まれば、あとは涼しくなるだけか。
暑中見舞いは立秋の前日まで。この日からは残暑見舞いとなる。

原爆忌 (広島 8/06, 長崎 8/09)
あわれ七ヶ月のいのちの はなびらのような骨かな なにもかもなくした手に四枚の爆死証明
(松尾　あつゆき)

中　旬 (8/11 - 8/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	8/13	-	**三十八候**　蜩鳴く
お盆(月遅)	8/13-15	-	
終戦記念日	8/15	-	
	8/18	-	**三十九候**　濃霧昇降す

お盆(盂蘭盆　暦日7/13-15)
「日付」は同じでも、地方により新暦・月遅・旧暦と元にする暦が異なるため時期が異なる。とは言え、なくてはならない夏の行事。

藪入り
昔、奉公人が主家に暇をもらえる日。お盆の帰省ラッシュのルーツ。

終戦記念日
大勢の人が死に、この日戦争が終わった。57年前の夏の日。
愚痴蒙昧の民として 我を哭かしめよ。あまりに惨く 死し我が子ぞ
(釈　迢空)

下　旬 (8/21 - 8/31)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
お盆(旧暦)	8/21-23	-	
	8/23	**処暑**	**四十候**　綿の花しべ開く
	8/28	-	**四十一候**　天地始めて寒し

処暑(8/23)
「暑さが止む」の意味の処暑。さしもの夏の暑さも衰え始める。

花火
お盆の送り火から始まったと言われる花火。各地で花火大会、往く夏を送る送り火のようである。秋の季語である。
まなうらに今の花火がしたたれり
(草間　時彦)

蜩(ひぐらし)
夏の終、夕暮れ時の蜩の声がもの寂しく聞こえてくる。
ひぐらしや灯せば白地灯の色に
(金子　兜太)

八月の花暦

中国	日本(江戸)	日本(現在)	
梨(なし)	薄(すすき)	百日紅(さるすべり)	朝顔(あさがお)

http://koyomi.vis.ne.jp/

9月のページ（九月の別称　長月・建戌月・玄月・菊月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付）

- 重陽の節句 (9/09)
- 祝日 敬老の日　(9/15)
- 秋彼岸 (9/20-9/26)
- 中秋の名月 (9/21)
- 祝日 秋分の日　(9/23)

上　旬 (9/1 - 9/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
二百十日	9/01	-	
	9/02	-	**四十二候**　禾実る
八朔	9/07	-	
	9/08	白露	**四十三候**　草露白し
重陽の節句	9/09	-	

二百十日 (9/01)　・　八朔 (9/07)

立春から210日目のこの日は台風被害の多い日として、八朔・二百二十日とともに農家の三大厄日。

野分

この時期に吹く強風を野分と呼ぶ。
いのししもともにふかるる野分かな
（芭蕉）

重陽の節句 (9/09)

五節句の一つ。菊の節句と呼ばれる。旧暦時代は穀類の収穫が終わった後の節句であったため刈り上げ節句とも呼ばれた。

中　旬 (9/11 - 9/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
二百二十日	9/11	-	
	9/13	-	**四十四候**　鶺鴒鳴く
敬老の日	9/15	-	
	9/18	-	**四十五候**　燕去る
子規忌	9/19	-	

敬老の日 (9/15)

敬老の日は、来年から9月の第3月曜日となる。日付固定は今年まで

子規忌 (9/19)

明治35年のこの日、近代俳句の確立者正岡子規が没する。糸瓜忌とも獺祭忌とも呼ばれる。
糸瓜咲いて痰のつまりし仏かな
（正岡　子規）

稲架（はざ）

刈り取った稲を乾燥させるために掛けるもの。地方毎に呼び名や形状は異なる。乾燥機の出現で徐々に姿を消している。

下　旬 (9/21 - 9/30)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
秋彼岸	9/20～26	-	
中秋の名月	9/21	-	
秋分の日	9/23	秋分	**四十六候**　雷声を収む
	9/28	-	**四十七候**　蟄虫戸を閉ざす

秋彼岸 (9/20-9/26)

9/23の秋分の日を中日として前後3日間が秋彼岸。

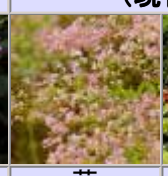
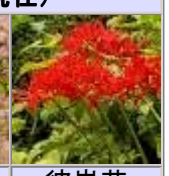
中秋の名月 (9/21)

旧暦の八月十五日。秋の真ん中の名月で中秋の名月。古くは収穫した芋などを備えたことから芋名月とも言う。今年は目出度く満月。

秋の七草

秋の野を彩る花々の代表、秋の七草。いくつ知っていますか？
子の摘める秋七草の茎短か
（星野　立子）

9月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
			
葵（あおい）	菊（きく）	萩（はぎ）	彼岸花（ひがんばな）

http://koyomi.vis.ne.jp/

10月のページ（十月の別称　神無月・建亥月・時雨月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て2002年の日付）

- 祝日 体育の日　(10/14)
- 後の月見　(10/18)

上　旬 (10/1 – 10/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	10/03	–	**四十八候** 水始めて涸れる
	10/08	**寒露**	**四十九候** 雁来る

寒露(10/08)

朝夕の冷気が草の葉に凝る。山の木々葉も色づき始める。

白露や死んでゆく日も帯締めて
（三橋　鷹女）

秋の七草

最近ではめっきり見かけることの無くなった秋の七草。もう、憶良の歌の中にしか見つけることが出来なくなりつつある。

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花
女郎花また藤袴 朝貌の花
（山上憶良）

中　旬 (10/11 – 10/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	10/13	–	**五十　候** 菊花開く
体育の日	10/14	–	
後の月見	10/18	–	
	10/18	–	**五十一候** 蟋蟀戸にあり

後の月見 (10/18)

旧暦九月十三夜の月を中秋の名月に対して**後の月**と呼び、観月の宴を後の月見と呼ぶ。

わが心澄めるばかりに更けはてて
月を忘れて向かふ夜の月
（花園院）

秋桜（コスモス）

調和・善行・名誉・宇宙の意味を持つ名の秋の花。

コスモスに藍濃き衣を好み着る
（三橋鷹女）

下　旬 (10/21 – 10/31)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	10/23	**霜降**	**五十二候** 霜始めて降りる
	10/28	–	**五十三候** 小雨時々降る

霜降(10/23)

北国では、霜が地を白く飾る季節。秋も暮れようとしている。
間もなく季節は冬へ。

蜻蛉（とんぼ・せいれい）

蜻蛉は「あきつ」ともいう。秋之虫の意味だとか。日本の古名の一つ「あきつしま」にもなったこの虫が減りつつあるそうだ。

とどまればあたりにふゆる
蜻蛉かな
（中村汀女）

十月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
菊（きく）	紅葉（ももじ）	木犀（もくせい）	秋桜（こすもす）

http://koyomi.vis.ne.jp/

11月のページ(十一月の別称　霜月・建子月・章月・雪待月など)

祝日と主な祭事　(以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て 2002年の日付)

- 酉の市 (11/01,13,25)
- 祝日 文化の日　(11/03)
- 七五三 (11/15頃)
- 祝日 勤労感謝の日　(11/23)

上　旬 (11/1 – 11/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
一の酉	11/01	–	
	11/02	–	五十四候　紅葉蔦黄ばむ
文化の日	11/03	–	
	11/07	立冬	五十五候　椿開き始む

文化の日(11/03)
日本国憲法発布を記念した祝日。戦前は四大節の一つ、明治節と同じ日付である。

紅葉
晩秋、秋を彩った楓の紅葉も残り少なく、見納めの時が近い。
ひつぢ田に紅葉ちりかかる夕日かな
（蕪村）

立冬(11/07)
暦の上ではこの日より立春前日までが冬。
凪わたる地はうす眼して冬に入る
（飯田　蛇笏）

中　旬 (11/11 – 11/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	11/12	–	五十六候　地始めて凍る
二の酉	11/13	–	
七五三	11/15頃	–	
	11/17	–	五十七候　金盞香

酉の市(11/01,13,25)
商売繁盛を願い、11月の酉の日に行われる祭り。東京都台東区鷲神社などが有名。一の酉、二の酉と続き今年は三の酉まである。

七五三(11/15頃)
子供の成長を祝う行事。男児三・五歳、女児三・七歳に祝うことが多い。

時雨
晩秋から初冬の頃に、はらはらと降っては止み、止んでは降る雨。
しめやかに時雨の過ぐる音聴こゆ
嵯峨野はさびし君とゆけども
（吉井　勇）

下　旬 (11/21 – 11/30)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	11/22	小雪	五十八候 虹隠れて見えず
勤労感謝の日	11/23	–	
三の酉	11/25	–	
	11/27	–	五十九候 北風木の葉を払う

勤労感謝の日と新嘗祭 (11/23)
勤労感謝の日は、作物の収穫に感謝するものが祝日かしたものか。
この日宮中では、秋に収穫された新穀を神に供えて感謝する行事、新嘗祭が行われる。

小春日和
日毎に冬めく季節にあり、ぽっかりと春の日を思わせる日のこと。
一人行き二人畦行く小春かな
（水原　秋桜子）

11月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
山梔子（くちなし）	柳（やなぎ）	山茶花（さざんか）	菊（きく）

http://koyomi.vis.ne.jp/

12月のページ（十二月の別称　師走・建丑月・極月など）

祝日と主な祭事　（以下、祝日・祭事・二十四節気等は全て2002年の日付）

- 祝日 天皇誕生日 （12/23）
- クリスマス （12/25）
- 大晦日 (12/31)

上　旬 (12/1 – 12/10)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	12/02	–	**六十　候** 橘始めて黄ばむ
カレンダーの日	12/03	–	
	12/07	**大雪**	**六十一候** 空寒く冬となる
太平洋戦争開戦記念日	12/08	–	

大雪(12/07)
里にも雪が降る頃である。
北国ではこの頃に降った雪は根雪となり、次の春まで大地を覆うことになる。

落葉
木々も葉を落とし眠りにつく。古い葉を落とした木々はまどろみながら、来春の芽吹きの夢を見ている。
落葉して木々りんりんと新しや
（西東　三鬼）

カレンダーの日
明治5年12月3日となるべき日は、改暦によって明治6年1月1日となったことを記念した日。

中　旬 (12/11 – 12/20)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	12/12	–	**六十二候** 熊穴にこもる
煤払い	12/13	–	
義士祭	12/14	–	
	12/17	–	**六十三候** 鮭魚群がる

煤払い・煤掃き (12/13)
元は江戸城の煤払いを行った日。
煤掃きてしばしなじまぬ住居かな
（許　六）

寒椿・冬椿
三冬を通して咲く寒椿、なぜ厳しい季節を選んで咲くのだろう。
決めてなほ胸に問いをり寒椿
（倉本　豊子）

石蕗の花（つわのはな）
寂しげな冬枯れの野に色彩を点ずる石蕗。その緑の葉と黄金色の花が、冬の日にまぶしい。
咲くべくも思はであるを石蕗の花
（蕪村）

下　旬 (12/21 – 12/31)

行事・祭事	日付	二十四節気	七十二候
	12/22	**冬至**	**六十四候** 冬生じ夏枯る
天皇誕生日	12/23	–	
クリスマス	12/25	–	
蕪村忌	12/25	–	
	12/27	–	**六十五候** 鹿角おつる
大晦日	12/31	–	

年の市
師走も半ばを過ぎると、新年を迎える品々を売る年の市が立つ。今年も後わずかで暮れようとしている。

冬至(12/22)
一年で一番日の短い日。翌日から日は徐々に長くなることから、**生命の再生**が始まる日と考えられる。旧暦時代の暦はこの日を起点として計算を始める。
冬至を祝い、**粥**や**南瓜**を食べ**柚湯**を立てる風習は今も残る。
さめかかる肌に柚湯の匂ひけり
長谷川　かな女

十二月の花暦

中国	日本（江戸）	日本（現在）	
芥子（けし）	桐（きり）	枇杷（びわ）	石蕗（つわぶき）

http://koyomi.vis.ne.jp/